



とびっくす No.39

(本誌はホームページでもご覧いただけます。 <http://www2.pref.shimane.lg.jp/suigi/>)

平成 20 年 (2008 年) の海況トピック

本号では平成 20 年 (2008 年) を振り返り、今年の見どころについて特集します。

夏季の高水温 (7~8 月)

平成 20 年の夏は、日本海南西部において例年にならぬほど表層の海水温が上昇しました。浜田港での 7 月下旬~8 月中旬の表層水温は平年より 2~3℃ 高い 30℃ 近くに達し、水産技術センターにおける過去約 30 年の観測値中最高を記録しました。これは気温が高く海面も静穏だったため、気温や日照の影響を受けて表層の海水温が上昇したためと考えられます。(同時期中層・底層の水温は平年並でした)。

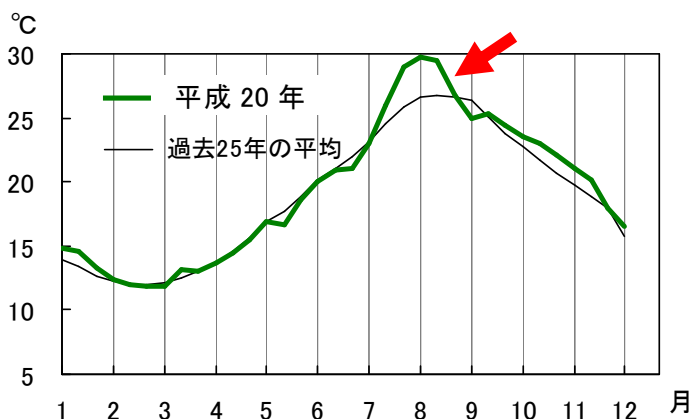


図 1 浜田港の水温

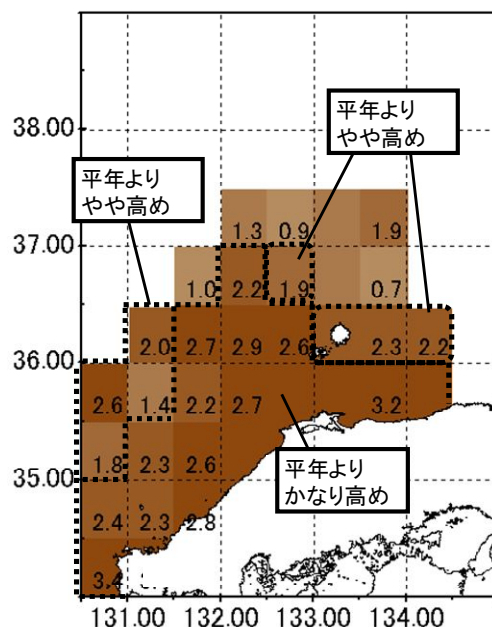


図 2 平成 20 年 7 月末の山陰沖の表層水温偏差 (図中の数字は「平年値より何度高いか」を示す)

円石藻による海の変色 (4 月)

4 月上旬には、島根県の沿岸で円石藻(ハプト藻)と呼ばれる植物プランクトンが大量発生し、海が白く濁る現象が発生しました。これは島根県では初めての現象でした。(とびっくす 34 号を参照)

カブトクラゲの大量発生 (4 月)

4 月中~下旬には県下沿岸でカブトクラゲと呼ばれる大きさ 5-10cm のクラゲが大量発生し、定置網などに入網して漁業者を困らせました(とびっくす 34 号を参照)。

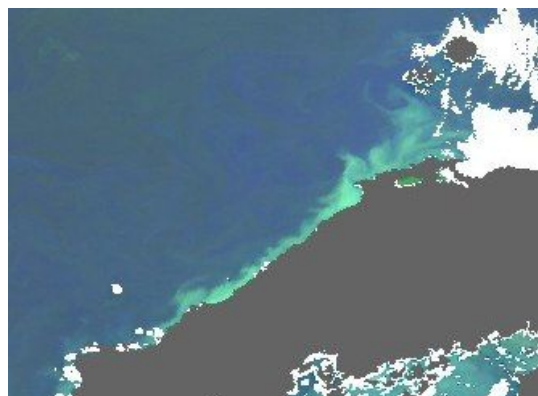


写真 1 白く濁った島根県沿岸。(4/8 衛星画像) (宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 提供)

消えた？エチゼンクラゲ（秋～冬）

一方で、ここ数年毎年のように秋～冬に島根県沿岸に大量に来遊して漁業に被害をもたらしているエチゼンクラゲですが、今年は全くと言っていいほど姿を見せませんでした(12月現在、島根県内では数個が定置網に入ったのが確認されているだけです)。発生海域である中国や韓国の沿岸での発生数が少なかったためと考えられますが、なぜこれだけ急激に減少したのかはよく分かっていません。



写真2 定置網に大量入網したカブトクラゲ

冷水によるアマダイの衰弱現象（11月）

11月12～13日に、大田市の沖合でかなりの数の衰弱(あるいは死亡)したアカアマダイが底びき網に入ったり、弱って海面に浮いているのが報告されました。調査の結果、原因は冷水塊の発達・移動による急激な水温低下によるものと推測されました。その理由は下記のとおりです。

- (1) 死亡したアマダイには外見および解剖所見上、衰弱・へい死に至るような病変や寄生虫・ウイルスは認められなかった。
- (2) 衰弱した魚種はアマダイのみである。
- (3) 多数の衰弱・へい死が急激に起こり、すぐに終息した。
- (4) 水産技術センターの海洋観測の結果から、10月末～11月には勢力の強い冷水塊が急速に発達し接岸していることが分かっている。また、11/12に益田沖で行った観測で、水深100m以深で水温が急激に10℃以下に低下していることが確認されている。

なお、同じ時期に山口県の日本海側でも同様の現象が報告されています。



写真3 衰弱して漁獲されたアカアマダイ(11/13)

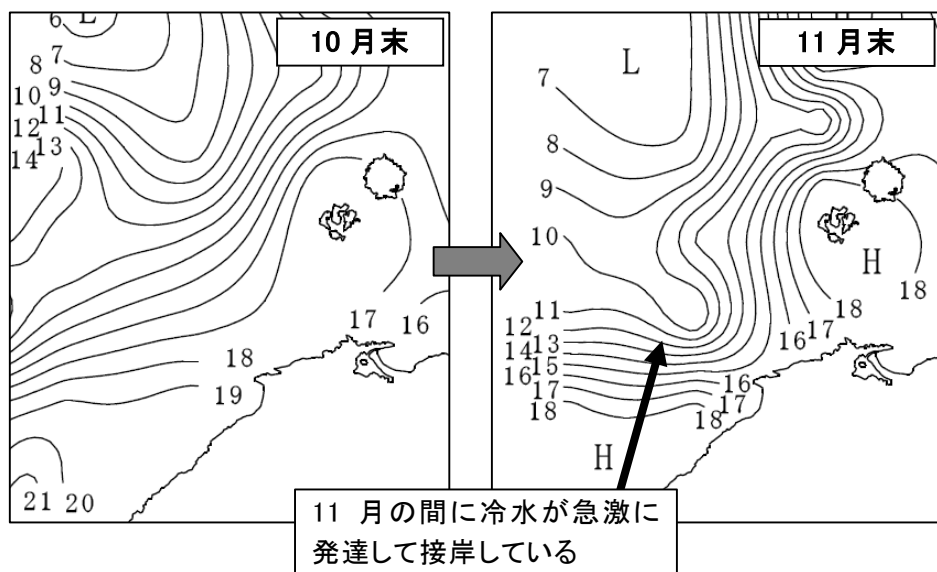


図3 10月末～11月の底層の水温変化(水深100m、図中の数字は水温℃)

平成 20 年に獲れた珍しい魚介類



イセゴイ(浜田・中型まき網)
イワシに近い仲間で、南方系の大型魚です。(2008.10.9 裕丸漁業提供)



スミツキアマダイ(大田・延縄)
アカアマダイと似ていますが、背ビレに黒い模様があります。主に東シナ海などに分布する種類です。(2008.7.1 JF 久手出張所提供)



トビイカ(浜田・中型まき網)
トビウオのように滑空して空を飛ぶことが知られているイカです。(2008.8.6 裕丸漁業提供)



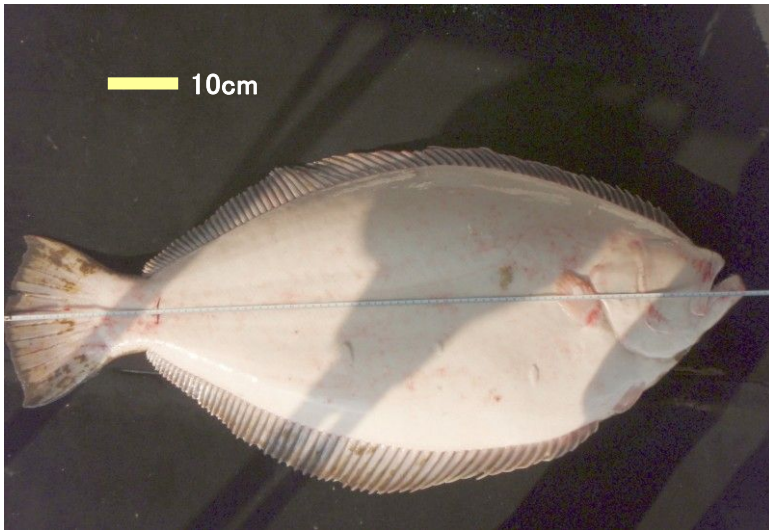
トックリイカ(仁摩・定置網)
イカなのに足が 8 本しかない大変珍しい種類です。日本海側では初めての発見例です。(2008.4.23 JF 仁摩支所提供)



ソウシカエルアンコウ(益田・底建網)
カエルアンコウ(旧称イザリウオ)の仲間ですが、かなり大型になる珍しい種類です。(2008.8.5 飯浦大敷提供)



クマサカフグ(浜田・中型まき網)
暖海の外洋に生息するフグで、島根県では珍しい種類です。(2008.7.31 裕丸漁業提供)



特大ヒラメ(浦郷・釣り)

全長:103cm、重量:16.58kg

平成20年3月10日に浦郷港で全長1mを超える巨大なヒラメが釣れました。重量では日本記録ではないかと思われています。このヒラメは放流ヒラメが成長したものでした。

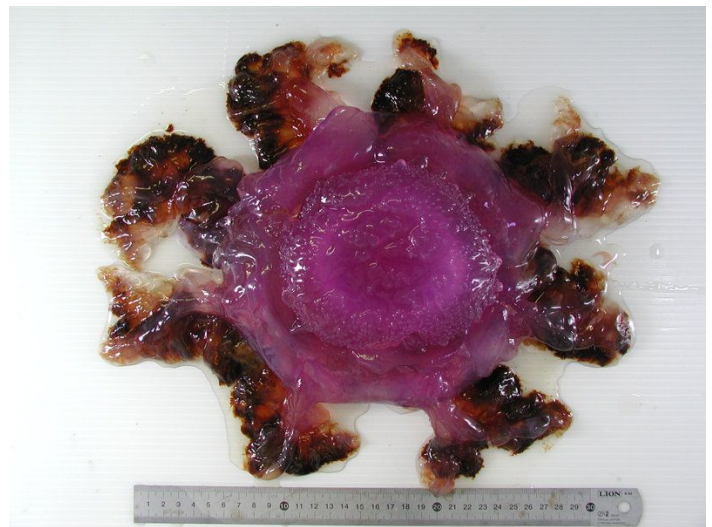
(写真の白い線のように見えるのはスケール(巻き尺)ですが、目盛りが分かりづらいので左上に目盛りを追加してあります)

※ この約1週間後の3月16日にも浦郷港で全長107cm、重さ14.5kgの特大ヒラメが釣れ、こちらは釣り団体の公式日本記録として認定されました。



サケガシラ(西郷、全長146cm、重量4.8kg)

リュウグウノツカイなどに近縁な魚で、普段は外洋の中層に生息しています。この個体は西郷湾で捕獲されたものですが、今年は西ノ島や出雲市の定置網でも見つかっています。(2008.2.28 JFしまね西郷支所提供)



イボクラゲ(浜田、定置網)

美しい紫色の南方系のクラゲです。(生きていたときは触手が付いていますが、この個体では脱落しています)

(2008.10.7 浜田大敷提供)

島根県水産技術センター

島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1

TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079

<http://www2.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp